

DER RIT

カナダ発の世界ブランド
BRP（ボンバルディア・レクリエーションプロダクツ）は、カナダの航空機メーカーとして知られるボンバルディア社から独立したレジャービークルメーカーだ。スノーモビルは、ボンバルディアの創業以来の事業だったが、それを創業家が出資する投資会社

カナダ発の世界ブランド

Believe



ボンバルディアと言えば航空機を連想する人も多いだろうが、BRPは、同社からスピンアウトした別個の企業だ。



レポーターにとって、この日がスパイダー初体験。左右のハンドルグリップにはレバーがなく、ブレーキは右足のフットブレーキのみ。セミオートマチックミッション（クラッチ操作およびシフトダウンは自動）の操作は左グリップのパドルスイッチで行う。しかし、バイクに慣れ親しんだライダーを驚かせるのは、操作系の作り以上に、スパイダーの挙動そのものだろう。スパイダーは、同じくフロント2輪のピアッジオMP3などとは異なり、車体をスイング（バンク）させる機構を持たない。バイクのようなバンク角依存ではなく、操舵によって曲がっていく乗り物だ。しかしその半面、フロント1輪の構成を持つ通常のトライクと同じかと言えば、それもまったく違う。スパイダーの操舵系は、軽自動車よ

3輪なれど
只のトライクに非ず

Ride



青柳代表の言う「イン・ニー」でのマシンホールドを重視したライディングは、バイクとはまったく異なるドライビングプレッシャーをもたらしてくれる。

前2輪、後1輪のリバース・トライクともいべき独創の車体構成を持つ、異形のロードスター・スパイダー。ライダーにとっては耳新しいブランド「BRP」が繰り出す“新体験”に刮目せよ!

バイクを楽しみ尽くした上で、さらに新たな喜びをどん欲に探し求めるモトコミュニティLIRICAの青柳代表。スパイダーの国内導入を誰よりも待ち望んでいた一人だ。



People

スパイダーを待ち望んだ男

カンナム・スパイダーの誕生は2007年。折しもその年、かのデイトナバイクウィーク会場で、その実車に遭遇していたのが、バイクショップ「リリカ」の青柳代表だ。

「2007年の渡米の際、デイトナで見たのがこのスパイダーでした。『またおかしなのが出てきたなあ』と思ったんですが、翌2008年、現地で実車に乗る機会があったんです」青柳代表率いる「リリカ」は、国内

